



TechFirm

テックファームホールディングス株式会社

2026年6月期(通期)
決算説明資料

2026年8月14日

東証グロース(3625)

目次

1. ハイライト	P. 3
2. 決算概要(2026年6月期)	P. 5
3. セグメント別決算概要(2026年6月期)	P. 10
4. 業績・配当予想等(2027年6月期)	P. 18
5. TOPICS	P. 22
6. APPENDIX	P. 26

ハイライト

業績ハイライト(連結)

増収・減益

売上高

7,059 百万円
YoY 5.3%↑

営業利益

721 百万円
YoY $\Delta 3.7\%$ ↓

経常利益

754 百万円
YoY $\Delta 0.9\%$ ↓

親会社株主に帰属する当期純利益

491 百万円
YoY $\Delta 1.9\%$ ↓

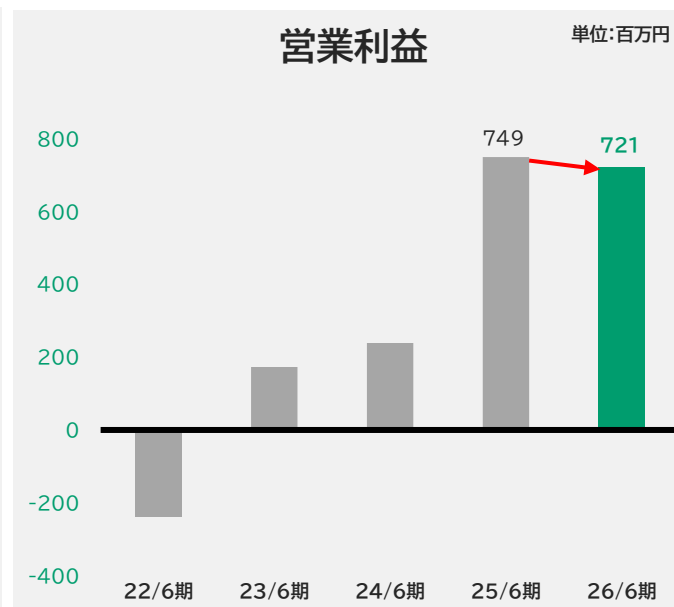
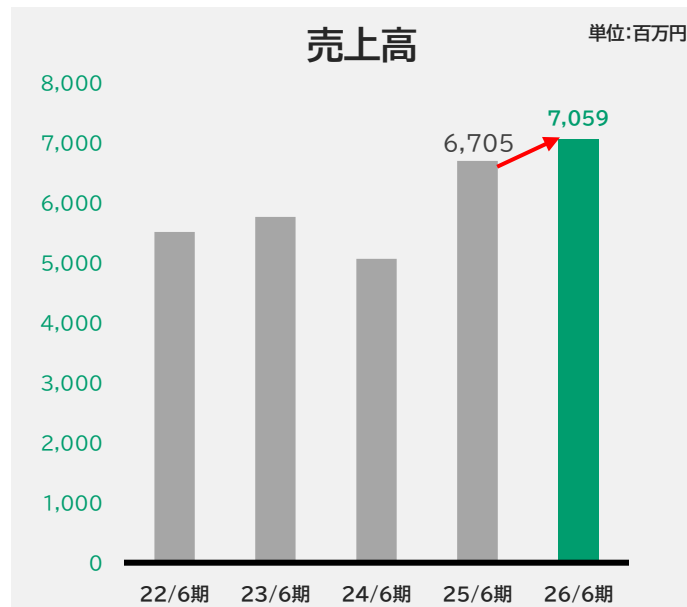
(注目点)

売上高は2期連続で過去最高を更新

中長期的な成長に向けた戦略的な投資は
期初計画通り実施、短期的に利益率低下

(要因)

- ICTソリューション事業は、既存大型案件の受注拡大により2期連続過去最高の売上高
- 先端技術の習得や技術検証、エンジニアの専門的スキル向上のための教育投資などを実施



決算概要(2026年6月期)

決算概要（全社）

増収・減益

【ICTソリューション事業】 増収・減益

既存顧客の事業パートナーとして事業成長に取り組んだ結果、受注拡大に繋がり売上高はさらに拡大
中長期的な成長を見据えた先行投資（先端技術の習得や開発体制の構築など）を実施、短期的に利益率低下

【クロスボーダー流通プラットフォーム事業】 減収・減益

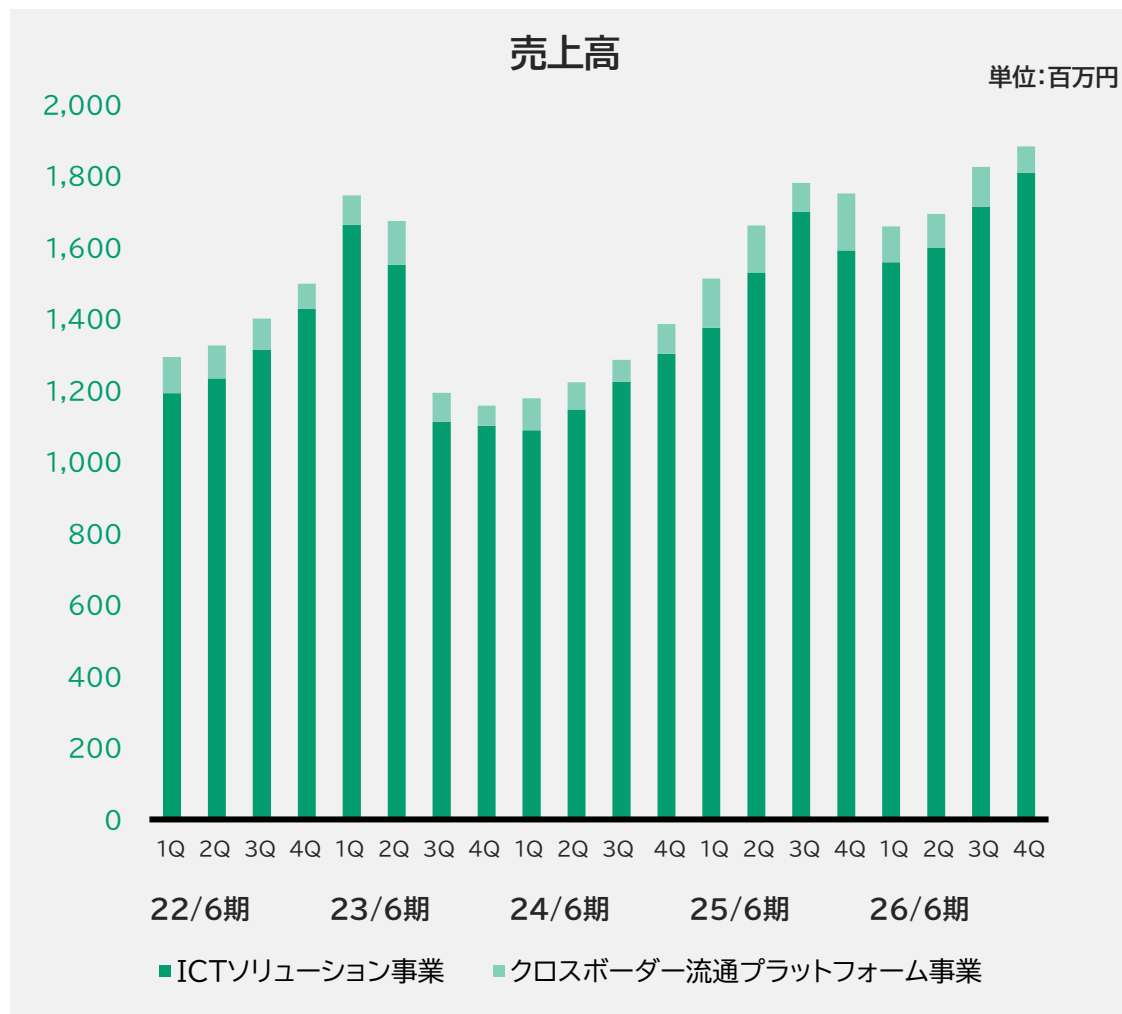
案件規模と採算性を重視した顧客ポートフォリオの再構築を戦略的に実施
収益性の向上や多国展開を見据え、物流とプロモーションを融合させた高付加価値のサービス体制構築を継続

単位:百万円

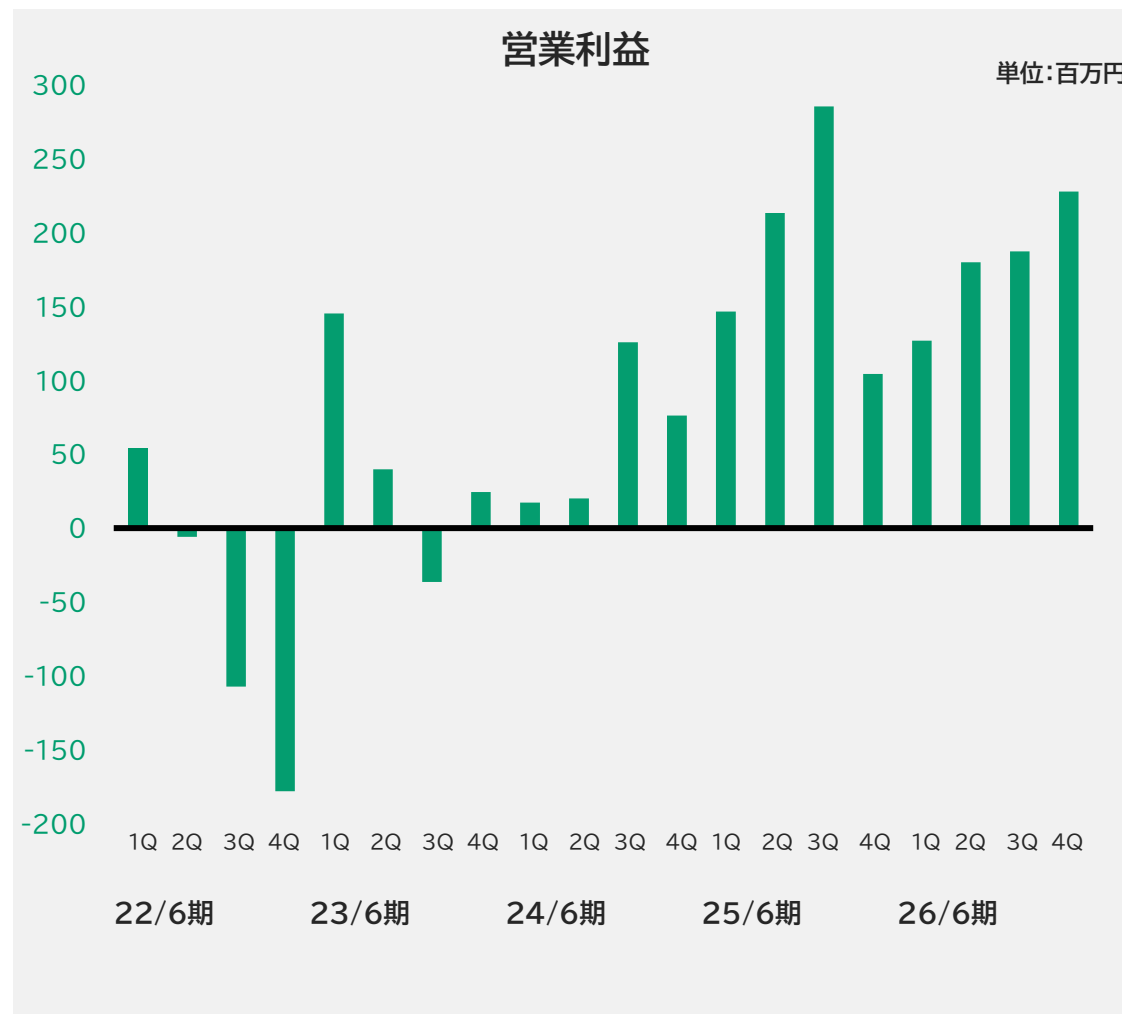
	25/6期	26/6期	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
売上高	6,705	7,059	+5.3%	+353
営業利益	749	721	△3.7%	△27
営業利益率	11.2%	10.2%	—	△1.0pt
経常利益	761	754	△0.9%	△7
親会社株主に帰属する 当期純利益	501	491	△1.9%	△9

四半期 業績推移(売上高及び営業利益)

売上拡大は順調に推移、過去最高を更新



中長期を見据えた投資で微減も
前期水準を維持



連結キャッシュ・フロー計算書

堅調な業績により営業CFの増加

単位:百万円

	25/6期	26/6期	増減額 (前期比)
営業活動によるキャッシュ・フロー	327	469	+142
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60	△37	+23
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40	△61	△21
現金及び現金同等物の増減額	214	394	+180
現金及び現金同等物の期首残高	2,338	2,553	+215
現金及び現金同等物の期末残高	2,553	2,947	+394

主な増減要因

- 【営業CF】税金等調整前当期純利益、並びに売上債権及び契約資産の減少などによる資金の増加
- 【投資CF】有形固定資産の取得による支出の減少
- 【財務CF】配当金の支払の増加(増配+3円)

連結貸借対照表

堅調な業績に支えられ純資産は順調に増加

単位:百万円

	25/6期	26/6期	増減額 (前期比)		25/6期	26/6期	増減額 (前期比)
流動資産合計	4,482	4,549	+67	流動負債合計	1,717	1,368	△349
有形固定資産	40	73	+33	固定負債合計	527	525	△2
無形固定資産	5	3	△2	負債合計	2,244	1,893	△351
投資その他の資産	430	412	△18	株主資本合計	2,732	3,171	+439
固定資産合計	476	489	+13	その他の包括利益 累計額合計	△13	△23	△10
繰延資産	4	3	△1	純資産合計	2,718	3,148	+430
資産合計	4,963	5,042	+79	負債純資産合計	4,963	5,042	+79

セグメント別決算概要 (2026年6月期)

セグメント概要：全体像

安定的な収益源である先端技術・テクノロジー領域(受託開発型)で蓄積した開発実績・ノウハウを成長への投資と位置付ける産業イノベーション領域(自社サービス提供型)へ投資し、さらに事業を拡大

安定的な
収益源

先端技術・テクノロジー領域
(受託開発型)

ソフトウェア開発



XR・AI研究開発



ICT技術

- 設計・開発
- UI/UXデザイン
- データ分析 等

投資

- 人材
- 資金

産業イノベーション領域
(自社サービス提供型)

業界特化型 ソリューション



クロスボーダー流通プラットフォーム



カジノ施設向け
決済ソリューション

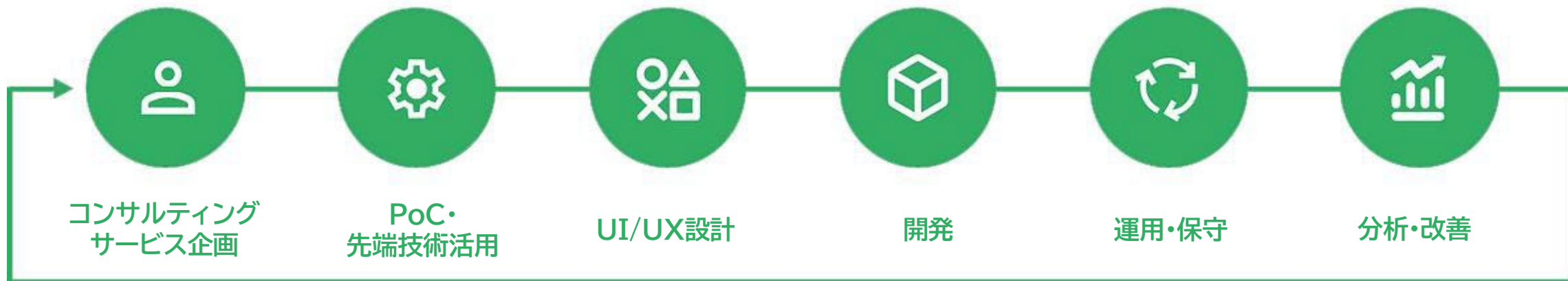


住宅リフォーム業向け
業務支援ソリューション

成長への
投資

プライムバンダーとして顧客ニーズをダイレクトに把握

「企画」「開発」「運用」の専門家が次世代の最新技術やトレンドを駆使し、全ての領域をワンストップサービスで提供



新技術を探求できる技術力

先駆者のいない未知の技術であっても、調査・検証等を経て紐解き、サービスに活用できる状態を目指す探求心と技術力を保持



目的や効果を重視したプロジェクト運営

現状の業務や課題に対しどのような効果をもたらすかを確かめながらプロジェクトを進行、課題に対し企画提案から支援可能



シームレスな全体最適が可能

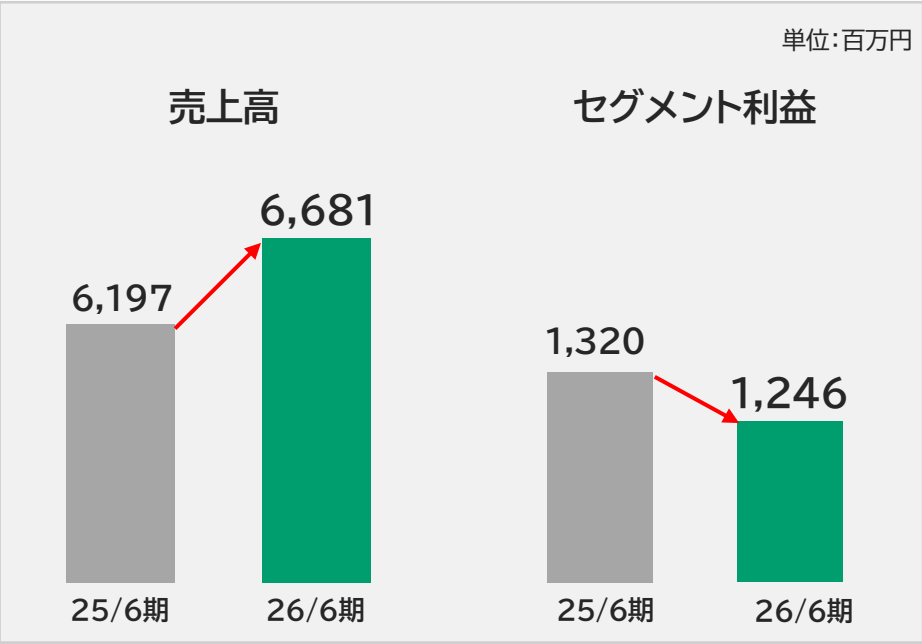
部分的な機能の開発ではなく、既存システムとの連携、サービスや業務全体を考慮したシームレスなUI設計・開発が可能

決算概要 : ICTソリューション事業

増収・減益

単位:百万円

	25/6期	26/6期	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
売上高	6,197	6,681	+7.8%	+484
セグメント利益	1,320	1,246	△5.6%	△74
セグメント利益率	21.3%	18.7%	—	△2.6pt



要因・その他

【増収】

- ・ 事業パートナーである既存顧客との深耕により大型案件の受注が拡大し過去最高の売上高を更新

【減益】

- ・ 生成AIなどの研究開発や技術検証、専門スキル向上を目的とした計画的な教育投資を実施し、短期的に利益率低下

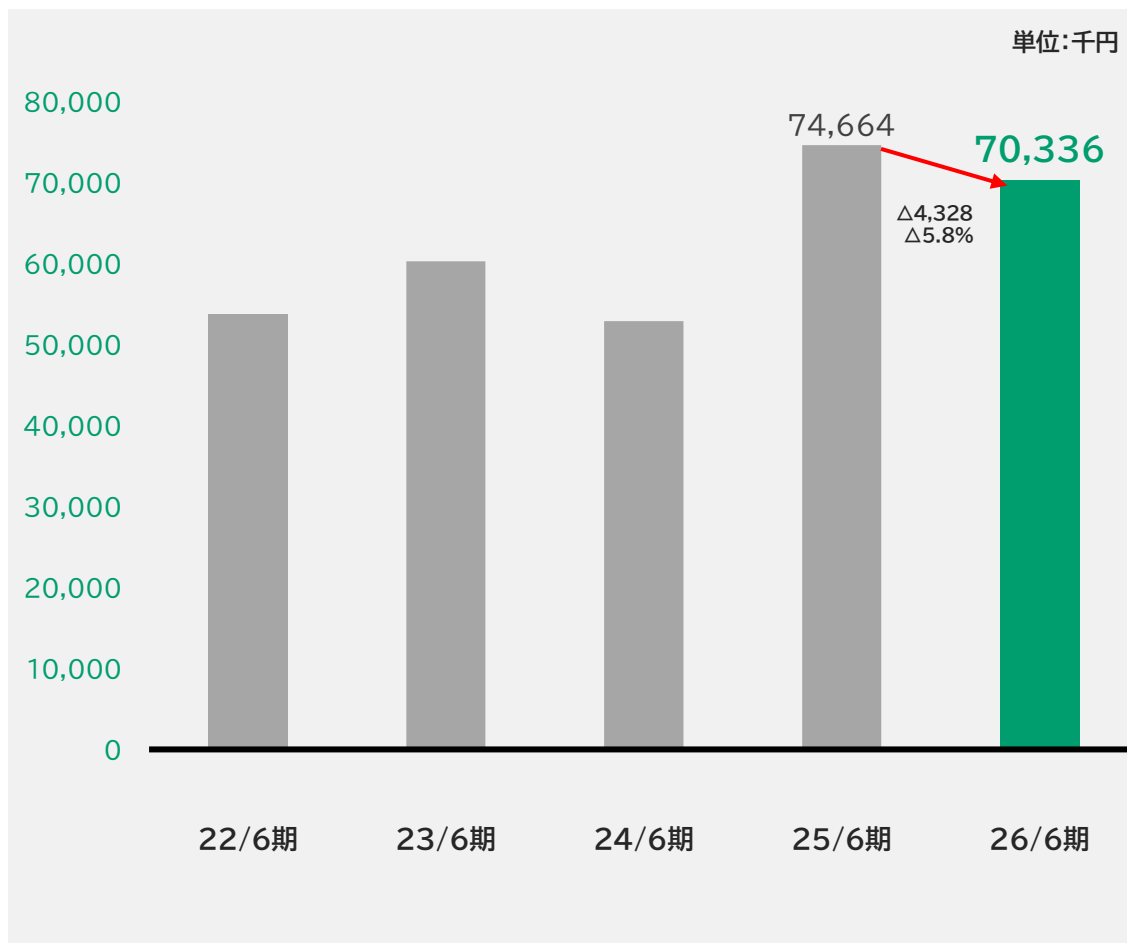
【先端技術】

- ・ AI技術やドローンなどを活用し、顧客の事業成長を加速・支援するPoC案件を数多くリリース

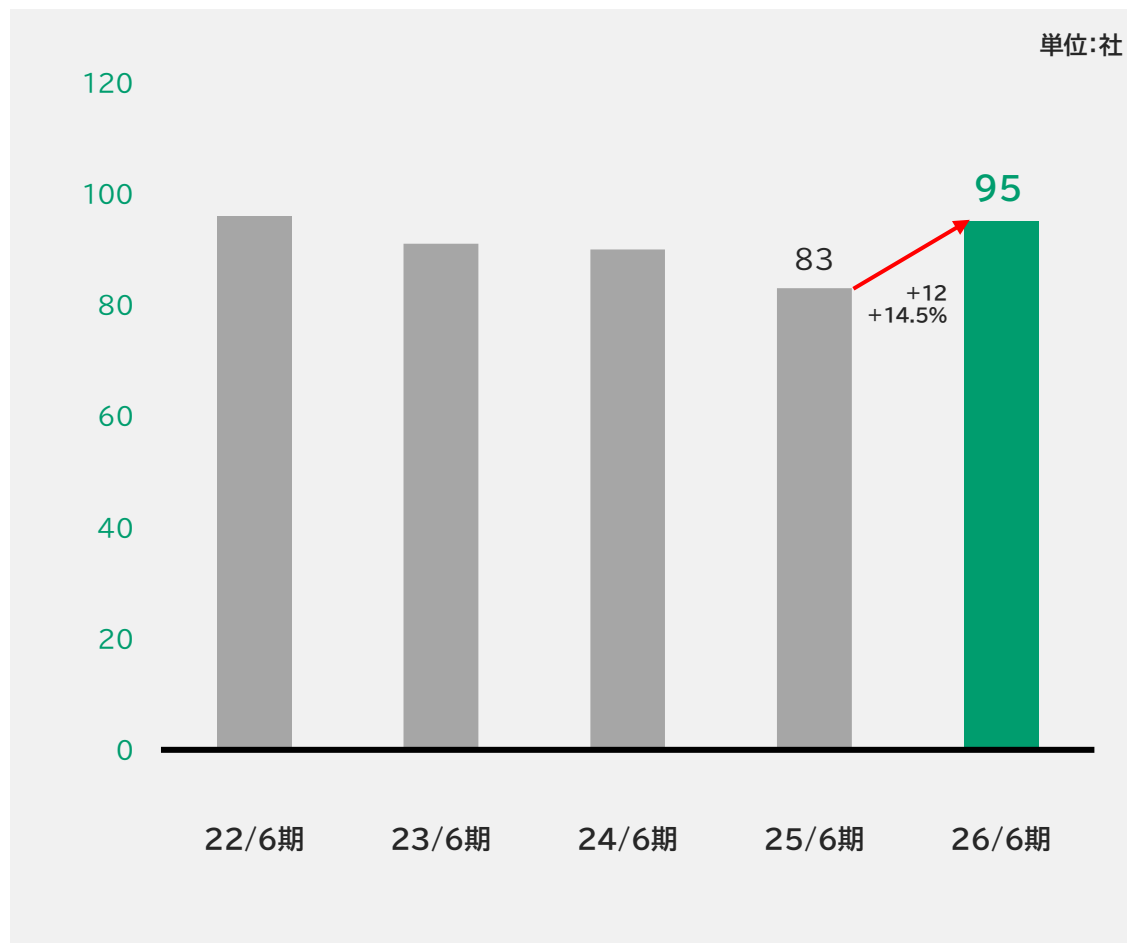
売上指標の推移：ICTソリューション事業

顧客単価は依然として高い水準を維持、次期事業パートナーの構築推進により取引社数増加

顧客単価



顧客数



クロスボーダー流通プラットフォーム事業

日本企業の強みを東南アジア市場で最大化するための「調査」「デジタルマーケティング」「ECプラットフォーム」「データ分析」まで、ビジネスの「創出」から「定着」まで一貫してサポート

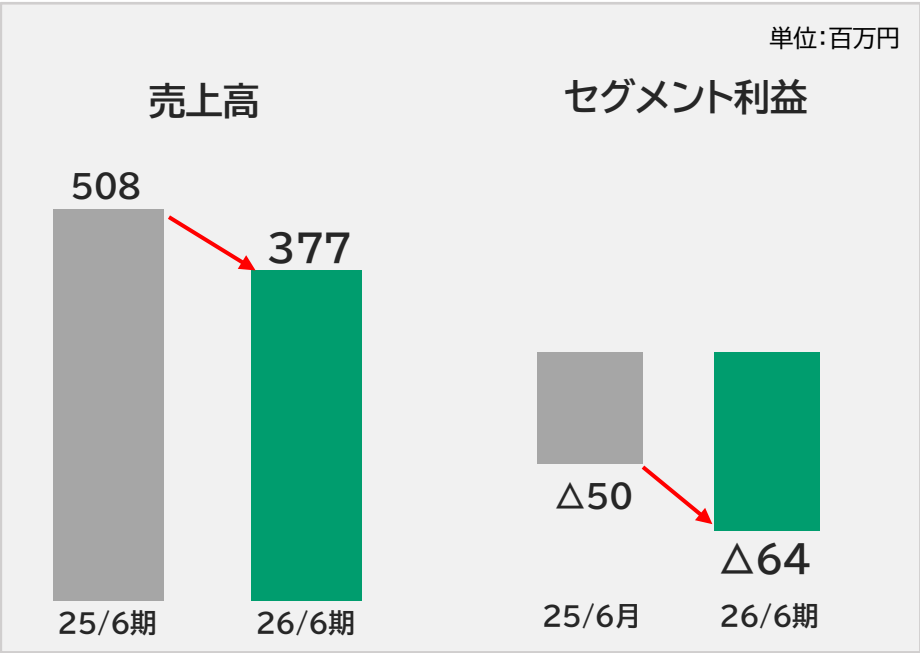


決算概要：クロスボーダー流通プラットフォーム事業

減収・減益

単位:百万円

	25/6期	26/6期	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
売上高	508	377	△25.8%	△131
セグメント利益	△50	△64	—	△14
セグメント利益率	—	—	—	—



要因・その他

【減収・減益】

- ・ 中長期的な成長基盤の構築を目的とした顧客ポートフォリオの最適化を重点的に推進、売上構成の入替えに伴う過渡期となり一時的に減収
- ・ デジタル(EC、SNS)とシンガポールのリアル店舗を融合した販売プロモーションを継続実施し、顧客数・単価・売上は順調に伸長

【投資継続】

- ・ (株)ディーエムエスとの業務提携により物流とプロモーションを融合させた高付加価値なサービスの提供体制の構築、収益性の向上と多国展開を見据えた事業基盤の強化を継続

前期の施策及び進捗状況(2026年6月期)

施策	進捗状況	詳細
1 先端技術・テクノロジー領域 人財への投資と組織力を高めるための環境整備を継続		● ターゲット人財と事業拡大規模に応じた採用活動を推進、依然として低い離職率を維持 ● 人財価値の最大化に向けエンジニアの報酬改定や専門スキル向上、PM育成、AI活用に向けた研究開発などの教育投資を実施
2 先端技術・テクノロジー領域 ・AI活用やドローン等の研究開発に重点投資、産業利用に向けた取り組みを加速		● AIエージェントの活用を通じた開発プロセスの短縮と開発基盤の標準化及びスケール化により効率的な開発体制を構築 ● 先端技術を活用した研究開発、PoCの取り組みにより、事業パートナーである顧客の事業成長を支援、また社会課題解決に寄与する案件も複数推進
3 先端技術分野でのプレゼンス向上と開発実績作り		
4 産業イノベーション領域 流通プラットフォームサービスの認知度向上と競争力のあるサービスのラインナップ拡充		● デジタル(EC、SNS)と海外リアル店舗を連動させたプロモーション施策の強化が奏功し売上高は前期比2倍、また多くのデータを蓄積、それを活用し海外進出企業を支援する体制の基盤構築を継続 ● 収益性重視の顧客構造転換に伴い一時的に減収、競争優位性の高いサービスラインナップ構築は計画どおり推進

業績・配当予想等 (2027年6月期)

業績・配当予想(全社)(2027年6月期)

継続的に売上拡大、先端技術推進への投資と利益確保を両立

単位:百万円

	26/6期 実績	27/6期 (予想)	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
売上高	7,059	7,500	+6.2%	+441
営業利益	721	750	+3.9%	+29
営業利益率	10.2%	10.0%	—	Δ0.2pt
経常利益	754	730	Δ3.2%	Δ24
親会社株主に帰属する 当期純利益	491	500	+1.7%	+9
年間配当(円)	8	8	0	0

業績予想(セグメント別)(2027年6月期)

事業パートナーとの深耕を継続し、各セグメント共に増収

単位:百万円

		26/6期 実績	27/6期 (予想)	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
ICTソリューション 事業	売上高	6,681	7,000	+4.8%	+319
	セグメント利益	1,246	1,280	+2.7%	+34
	セグメント利益率	18.7%	18.3%	—	△0.4pt
クロスボーダー流通 プラットフォーム 事業	売上高	377	500	+32.4%	+123
	セグメント利益	△64	0	—	+64
	セグメント利益率	—	—	—	—

今期の戦略(2027年6月期)

先端技術・テクノロジー領域 | ICTソリューション事業

1

AI駆動開発 x 当社強み で顧客の事業成長を支援

2

ドローン等の先端領域でのプレゼンス向上と事業化推進

産業イノベーション領域 | クロスボーダー流通プラットフォーム事業

3

データを武器に海外進出の成功率を高めるプラットフォームへ

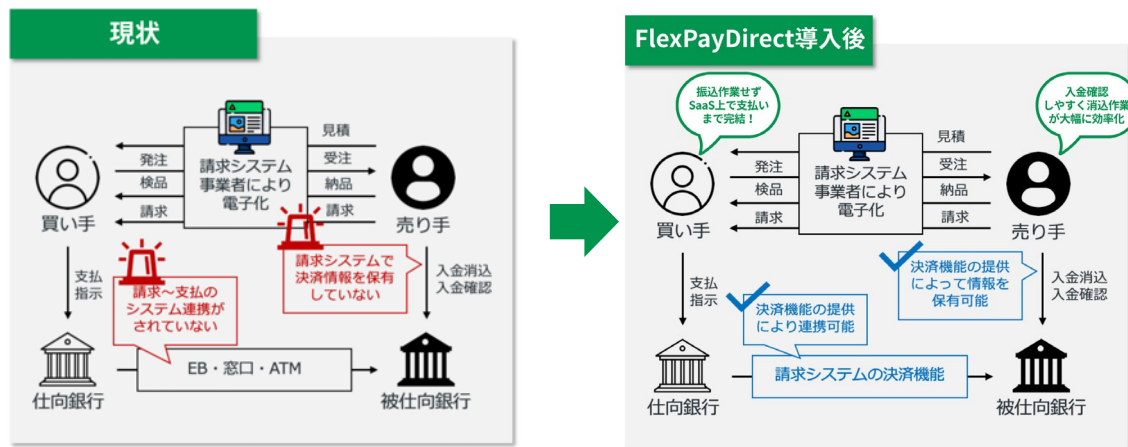
TOPICS

TOPIC ① (ICTソリューション事業)

顧客の事業成長を加速・支援するAIソリューションの事例

「DX x AI」 日本初 法人向けマルチバンク決済サービスを開発

(株)りそな銀行が展開する法人向け決済サービス『FlexPayDirect』
請求書の確認から支払い完了までを一つの業務ソフト上で完結、
かつ複数銀行口座を横断して利用可能
経理業務の効率化、振込作業のデジタル化などの課題解決に貢献



同リリースの詳細

<https://www.techfirm.co.jp/casestudy/resona-flexpaydirect>

「XR x AI」 倉庫ピッキング業務改善

XRグラス『MiRZA』を活用した倉庫ピッキング業務効率化PoC
非熟練者の作業効率が向上し、最大で11%の効率改善
・ピッキングリスト読み込みから作業記録までの一連の作業を支援する
アプリケーション及びバックエンドシステムを当社が開発・提供



同リリースの詳細

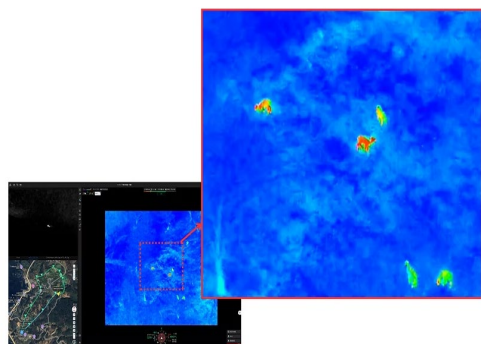
<https://www.techfirm-hd.com/pressrelease/20250820.html>

TOPIC ② (ICTソリューション事業)

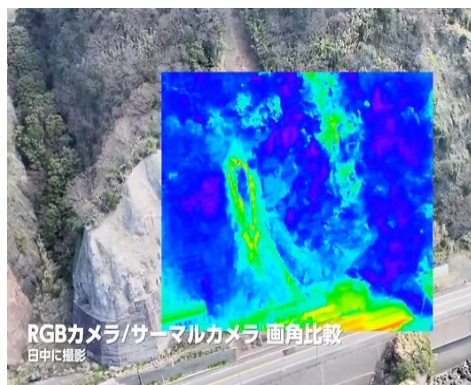
先端技術を活用した新たなサービス創出の事例

「ドローン x DX」 自治体業務DX化 先端技術で社会課題解決へ

福井県とドローン活用に関する社会課題の解決実証のためのアドバイザーに関する協定を締結し、自治体業務のDX化を始動
鳥獣害や防災、インフラ点検など、現在直面している切実な社会課題の解決に向け実証実験を実施
この「福井発の先進モデル」を全国に広げ、地域課題解決を推進



獣害対象の夜間の出現状況確認

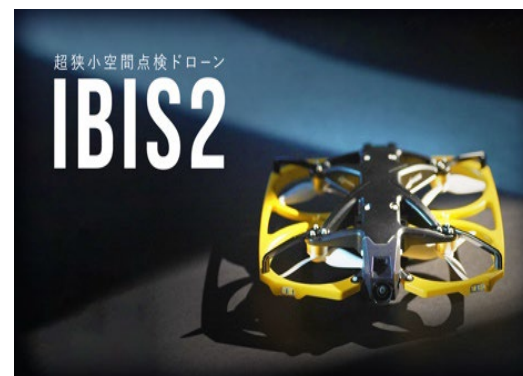


同リリースの詳細

<https://www.techfirm.co.jp/casestudy/suisenland-drone-poc>

「ドローン x XR」 XR・3D技術を活用 インフラ点検DXを推進

老朽化インフラの点検需要拡大を見据え、リベラウェア製の狭小空間向けドローンを活用した高精細3Dモデル化事業に参入
リベラウェア社のゴールドパートナーとして機体提供からデータ取得、3Dモデル化、現場導入・定着まで一体で進め、老朽化したインフラ点検DXを推進



▲地中空間を飛行するドローン

同リリースの詳細

<https://www.techfirm-hd.com/pressrelease/20260707.html>

TOPIC ③ (クロスボーダー流通プラットフォーム事業)

新たなサービス創出・先端技術を駆使したシステム強化

越境EC・物流・先端技術を融合した 「海外向け販売促進サービス」

(株)WeAgri、(株)ディーエムエス、テックファーム(株)の3社が業務提携それぞれの強みを活かした高付加価値なサービス提供が可能な体制を構築、アジア諸国への展開を見据えた取り組み

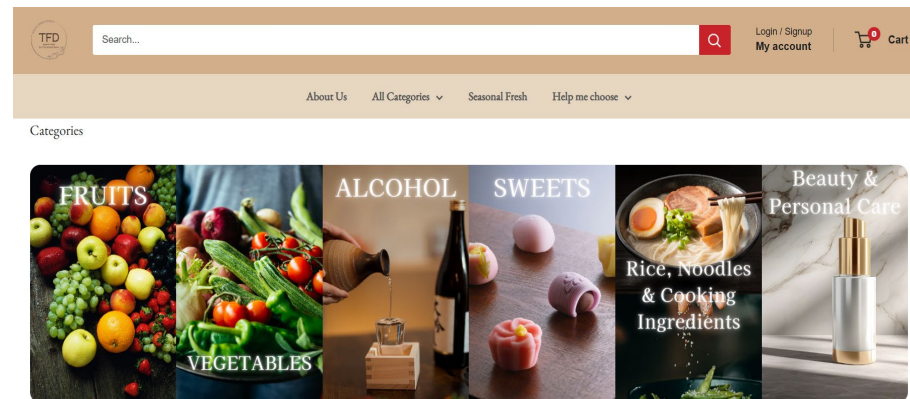


同リリースの詳細
<https://weagri.jp/news/20251201>

越境ECサイト『TokyoFreshDirect』*内で 商品プロモーションにAI技術を活用

プロモーションを強化する多言語コンテンツを生成AIで自動生成ショート動画で視覚に、海外利用率の高いpodcast風の音声コンテンツで聴覚に訴え、“読み飛ばされない”商品ページを実現

*海外向けECサイト『TokyoFreshDirect』
<https://tokyofreshdirect.com/>



同リリースの詳細
<https://weagri.jp/news/20251202>

APPENDIX

テックファームグループ 会社概要

テックファームホールディングス株式会社

資本金： 1,000百万円
連結社員数： 317名



世界初、日本初、業界初等の先進的な”未来づくり“に挑戦

売上高
(億円)

80

70

60

50

40

30

20

10

0

1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026

1999年



世界初の携帯電話
IP接続サービス
「iモード」

2004年



ペーパーレス搭乗
おサイフケータイ
「ANA MLCアプリ」

2008年



明治～1400万件以上
読売新聞データベース
「ヨミダス歴史館」

2011年



音声エージェントサービス
「しゃべってコンシェル」

2014年



ミライト 共同開発
客室設置型タブレット
『ee-TaB*』
(イータブ・プラス)

2017年



「FaceAI」機能
搭載アプリ
「第一生命」

2018年



世界初の情報銀行
「Dprime」

2021年



AI分析による
感情の可視化研究

2022年



業界初の
プラットフォーム
サービス

2024年

小売業ECサイト
3D生成ソリューション
世界初、AR2搭載
XRグラス「MiRZA」
UI設計・アプリ開発

2026年

マルチバンク決済サービス
「FlexPayDirect」





TechFirm

本資料は、テックファームホールディングス株式会社(以下「当社」)が当社及び当社グループ会社(以下「当社グループ」)の企業情報等の提供のために作成したものであり、国内外を問わず、当社が発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。本資料に記載されている当社及び当社グループに関連する見通し、計画、目標等の業績予想や将来予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの将来見通しと大きく異なる場合があります。